

19世紀末のサンフランシスコにおける無償幼稚園運動の展開 —サラ・クーパーの貧困と犯罪に対する闘い—

米村佳樹

Development of the Free Kindergarten Movement in San Francisco of the Late Nineteenth Century: Sarah Cooper' Battle against Poverty and Crime

Yoshiki YONEMURA

抄 録

本稿は、19世紀末にカルフォルニア州のサンフランシスコ市においてサラ・クーパーがどのように幼児教育の視点から貧困や犯罪に取り組んだかについてゴールドゲイト幼稚園協会の年報やサンフランシスコ市年次報告など用いて明らかにすることを目的としている。研究の結果、次のことが明らかになった。ゴールドゲイト幼稚園協会の目的は、彼らの教育を通して犯罪と貧困を予防することであった。多くの気前の良い寄付者と地元新聞社は、無償幼稚園の成長発展に大きく貢献した。クーパーは、心身の全面的な発達という教育理念の下に子どもの自由と自己活動を重視した。彼女の目標は、貧富に関わらず、すべての子どもにひとしく幼稚園教育を保障することであった。彼女は、その目標を達成するために望ましい施設は公立幼稚園であると考えた。無償幼稚園は、保育見学や育児相談、母の会を通して母性を育んだ。

キーワード：サラ・クーパー、無償幼稚園、公立幼稚園、サンフランシスコ

I. はじめに

1870年代に入り、アメリカ合衆国では移民の流入や都市化と産業化の進展に伴い、都市のスラムの劣悪な安アパートに住む貧困な子どもたちの悪徳と犯罪の問題が深刻化してきた。これらの子どもたちは、長時間の重労働などに苦しむ親たちや残虐な父親たち、酔っ払う母親たちによって放任されて、街路で悪徳と犯罪、不摂生、絶望の中で育っていた。¹ こうした悲惨な状況にあるスラム街の子どもたちを救済するために、無償幼稚園、慈善幼稚園を開設する幼稚園運動が女性クラブやキリスト教の教会などの支援を得て、ボストン市やニューヨーク市をはじめ、サンフランシスコ市でも展開され、その他の都市のモデルになった。²

サンフランシスコ市の最初の慈善幼稚園、シルバー街幼稚園は、こうした社会背景の下、1878年にTar Flatと呼ばれたスラム地区に裕福な市民グループによって設置された。ウィギン (Kate

Douglas Wiggin, 1856-1923)が教師に抜擢されていた。クーパー (Sarah Brown Ingersoll Cooper, 1835-1896) は、後述するように、1879年の春、このシルバー街幼稚園を見学して感激し、ジャクソン街無償幼稚園の設置へと導かれた。その後、クーパーとウィギンの尽力により、サンフランシスコは1890年代に貧しい家庭の幼児たちを対象にした全米最大の無償幼稚園制度を確立した。クーパーが1880年に創設したゴールドゲイト幼稚園協会には、1890年において国内のみならず、ニュージーランドやカナダ、日本などから、五千以上もの問い合わせがくるほど、各国からも注目を集めた。³

我が国において、こうしたアメリカ合衆国の無償幼稚園を取扱った先行研究はあるが、クーパーとそのゴールドゲイト幼稚園協会を真正面から取り上げた研究はない。阿部真美子ほか『アメリカの幼稚園教育運動』(明治図書、1988年)には記述が見られないし、岩崎次男編『近代幼児教育史』(明治図書、

1979年)ではゴールデンゲイト幼稚園協会とクーパーについて後述するバンデウォーカー (Nina C. Vandewalker) の著作に依拠して簡述しているだけである。丸尾謙「アメリカにおける無償幼稚園の成立に関する一考察」(聖和大学論集教育学系27号, 1999年)は、クーパーの強い指導力によるゴールデンゲイト幼稚園の設立経緯やその成功の秘訣について、エリザベス (Ross, Elizabeth) の博士論文と第14回ゴールデンゲイト幼稚園教育協会年報のみを用いて概観している。藤原保利「アメリカにおける無償幼稚園運動とその保育の論理」佐野国際情報短期大学研究紀要(11)2000年, 269-277頁)は、クーパーについてシャピロ (Michael Steven Shapiro) の著作に依拠して若干言及している。その他、橋川喜美代は、クーパーとゴールデンゲイト幼稚園協会については、シルバー街幼稚園のケイト・B. ウィギンとの関係において記述しているに過ぎない。「無償幼稚園における子どもの生活形態と母親教育—ケイト・D. ウィギンの実践を通して—」(鳴門教育大学研究紀要第22巻, 2007年)

アメリカ合衆国では、Nina C. Vandewalker, *The Kindergarten in American Education* (Macmillan, 1908) は、クーパーによるゴールデンゲイト幼稚園協会の創設と多額の寄付金、幼稚園と子どもの数、カルフォルニア州の教育風潮に与えた影響について明らかにしている。Michael Steven Shapiro, *Child's Garden: The Kindergarten Movement from Froebel to Dewey* (The Pennsylvania State University Press, 1983) では、その第6章無償幼稚園(1873-1893)において、クーパーの幼稚園に対する異端の嫌疑の顛末について詳述しているが、シルバー街幼稚園の教育活動そのものについてはほとんど言及していない。また、Barbara Beatty, *Preschool Education in America: The Culture of Young Children from the Colonial Era to the Present* (Yale University Press, 1995) は、クーパーがシルバー街幼稚園を見学して、聖書クラスと一緒に幼稚園を開設したこと、彼女のいとこ、インガーソル (Robert G. Ingersoll) が有名な無神論者であったためにクーパーが異教の嫌疑がかけられたこと、博愛主義者のP. A. ハーストが彼女を支援し続けたこと、クーパー

が1896年に自殺した娘の道連れになって悲劇的な死を遂げたことを指摘している。V. Celia Lascarides & Blythe F. Hinitz, *History of Early Childhood Education* (Falmer Press, 2000) は、セントルイス市の公立学校内の幼稚園やケイト・ウィギンのシルバー街幼稚園などについて記述しているが、クーパーの言動は取り上げられていない。

以上のような先行研究の状況を踏まえ、本稿は、19世紀末における幼児教育の視点からの貧困や犯罪への取り組みの事例として、カルフォルニア州のサンフランシスコ市において無償幼稚園運動を展開したゴールデンゲイト幼稚園協会を取り上げ、その創立者であるクーパーがスラムに蔓延していた犯罪と貧困に対してどのように取り組んだかについて、HATHI Digital Library (https://www.hathitrust.org/digital_library) に所蔵している *Annual Report of the Golden Gate Kindergarten* や *San Francisco Reports, The Kindergarten for Teachers and Parents, Kindergarten News, The Overland Monthly, The New Education, The California Educational Review, Annual Report of the Superintendent of Public School* などを手掛かりに究明することを目的とする。具体的には第一にクーパーの略歴と無償幼稚園の設置経緯、第二にゴールデンゲイト幼稚園協会の創設理念とその活動、寄付金に支えられた無償幼稚園の成長、第三に幼稚園における教育とその方法、第四に幼稚園と母性や母の会の活動、第五に幼稚園と公立学校の統合、公立幼稚園に関するクーパーの見解及びサンフランシスコにおける公立学校への幼稚園の統合の動き、を明らかにする。

II. サラ・クーパーとジャクソン街無償幼稚園の設置経緯

1 サラ・クーパーの略歴

クーパーは、1835年12月12日にニューヨークのカゼンノヴィア (Cazenovia) の美しい村で生まれた。1852年に米国最初に男女共学を認めたカゼンノヴィア神学校 (Cazenovia Seminary) を卒業した後、彼女は、音楽と現代語を学ぶためにニューヨークのトロイ女性神学校 (Troy Female Seminary) の生徒に

なった。その後、南部ジョージア州のアウグスタ (Augusta) に行き、名士であったシュリー家のガバナス (家庭教師) として働いた。アウグスタにあった農園 (プランテーション) には数百名の奴隷がいた。ここでも、彼女は日曜日の午後、彼らを集めて、聖書を教えた。アウグスタにいた間、彼女は、テネシー州の新聞 (Chattanooga) の編集者であったハルゼー・クーパー (Halsey Fenimore Cooper) と結婚した。彼は、カゼンノヴィアにいる時、数学教師をしていた人物であり、そこで出会い、彼女と婚約していた間柄であった。⁴

南北戦争が勃発した時、クーパー家はニューヨーク州に戻った。1863年に夫が国税庁の査定人に任命されてテネシー州メンフィスに転居した。クーパーは、そこでも聖書クラスを教えたり、難民援助協会 (Society for the Aid of Refugees) の会長として仕えたりした。彼女が健康を損なったこともあり、夫は職を辞し、1869年にカルフォルニア州のサンフランシスコに移住した。健康も回復し、夫の励ましもあり、教会で慈善活動を再開し、あらゆる宗派の人々が出席していた聖書クラスを教えた。後述するように、この聖書クラスからジャクソン街幼稚園とゴールドゲイト幼稚園協会が生まれた。⁵クーパーの最大の理解者であり、彼女を無償幼稚園へと導いたスウィート (John Sweet, 元州教育長) は、クーパーについて、無償幼稚園運動に「彼女の縦横無尽の明晰な頭脳、愛嬌のある物腰、献身的なキリスト教博愛主義」を与えたと称賛した。⁶1893年には全米幼稚園連盟 (International Kindergarten Union) が組織されたが、顕著な業績をもち、尊敬されていたクーパーは、その初代会長に選出され、全米幼稚園連盟のために活発に活動した。⁷

2 ジャクソン街無償幼稚園の設立経緯

1879年10月にクーパーらによってサンフランシスコの放任された子どもたちのための無償幼稚園が開設された。無償幼稚園はクーパーのライフワークになったが、彼女を無償幼稚園へと動機づけたのは、1878年9月にアドラー (Felix Adler) とその素晴らしい支援者たちによって、「教育は、常備軍よりも自由のよりよい防御である」という標語の下に設置

されていたシルバー街無償幼稚園の訪問であった。その無償幼稚園の教師には、ウィギンが抜擢されていた。⁸彼女は、クーパーとともにサンフランシスコの無償幼稚園運動を主導した人物である。このシルバー街無償幼稚園が開設されてから間もない1878年11月、女子ハイスクールの校長であったスウィートに伴われ、クーパーはシルバー街無償幼稚園を訪問した。この最初の訪問で衝撃を受けたクーパーは、親に放任され路地で徘徊している子どもたちの群れを救出するため、地元新聞のThe Daily Pressの理解もあり1879年にDaily Evening Bulletinに6本の論稿を連載して地域住民の関心を喚起した。⁹当時、サンフランシスコ市は市民自警団が結成されるほど、無法状態に陥っていたこともあり、クーパーの無償幼稚園に関する論稿は市民から熱烈な賛同を得た。¹⁰

最初の論稿のタイトルは「不良行為への最善の救済策」(A Remedy for Hoodlumism) であり、クーパーはサンフランシスコで横行していた不良行為の予防手段として無償幼稚園を説いた。その頃、ごろつきから市民を守る警戒委員会が組織されるほど、その恐怖に怯えていた市民にとって興味深い論稿であった。¹¹第二の論稿は「シルバー街幼稚園訪問」と題するもので、訪問した時の衝撃をクーパーは「ちょうど、すべての世界にとって、まるで、天国が開き、ちょっとした楽園が嵐に苦しめられてきた彼らの生活に滑り落ちたようであった」¹²と感動的に表現した。その後は、犯罪予防策としての幼稚園やフレールベルの幼稚園理論に関する論考などが掲載された。これらの6本の論稿は、「犯罪の予防、産業への準備、人格形成の観点からの幼稚園の価値、州にとっての良い投資としての幼稚園の価値」¹³を論じたものであり、市民の大きな関心を喚起させた。

このようにシルバー街無償幼稚園の仕事に深く感動したクーパーは、カルバリー長老派教会で彼女自身が開いていた成人聖書クラスに出席していた数百名の人々に無償幼稚園の設置を提案した。その時、聖書クラスの人々の心を動かしたのは、「教義を学ぶことは、神の意志を実行すること」「未来の世界にすべてをもつが、現世に何もたない宗教はどち

らにも何ももたない¹⁴という彼女の言葉であった。聖書クラスの人々はクーパーの提案を心から受けとめ、ジャクソン街無償幼稚園協会を創設するとともに、1879年10月6日に治安の悪い“Barbary Coast”に隣接するジャクソン街116番地にジャクソン街無償幼稚園（Jackson Street Free Kindergarten）を開設した。月刊誌の編集者、シンは、このバーバリ沿岸地帯にはフランス人やイタリア人、その他の南欧の人々が住んでおり、飲酒と悪徳は蔓延し、犯罪は多発していたが、深刻な貧困はなかったこと、これらの南欧人は飲酒、あるいは激情して子どもたちを虐待したり、放任したりするかもしれないことを報じていた。¹⁵ ジャクソン街無償幼稚園協会の規約第2条には「その目的は、『バーバリ・コースト』として知られる所の近辺にあるジャクソン街に無償の公立幼稚園を設置し進展させること、可能な限り、サンフランシスコの貧困な、放任されている幼い子どもたちの間に無償幼稚園を促進するのを援助すること」と明記されていた。

この無償幼稚園は、ロッキー山脈の西では、二番目に設置された無償幼稚園であった。最初の教師は、マーヴェデル（Emma Marwedel）の幼稚園教員養成学校の卒業生であり、フレーベルの熱烈な使徒であった幼稚園教師、リード（Elizabeth Reed）であり、若くて有能なMiss Annie Stovallが助手として補助した。リードがすぐに体調を壊したため、キットレッジ（Mary Kittredge）が教師になった。ジャクソン街幼稚園協会の役員には、次の女性たちが選出された。会長リックス（Edward Rix）、副会長クーパー（Hattie Cooper）とウインクル（Nelile Van Winkle）、財務フィッチ（Jennie Fitch）、書記ホーン（Hattie Horn）。クーパーは監督者になった。¹⁶

クーパーには、「予防は治療に勝る」といった諺もあるように、貧民感情や犯罪の予防は救貧院や刑務所の設置よりも安価であり、かつ、義務教育の段階ではなく、より早期の幼稚園段階の方がより有効なものであるという信念があった。そうした信念の下、裕福な階層の人々に犯罪予防としての幼稚園の投資的価値や、貧困な階層への人間的な共感の必要性を説いた。¹⁷そして、十分な寄付金を集め、マー

ヴェデルによって養成された有能な幼稚園教師を獲得するとともに、フレーベル教材を購入した。聖書クラスの貴婦人たちは、園児を集めるために街路に出向き、貧困家庭を訪問し、親と子どもに幼稚園クラスについて説明したという。¹⁸幼稚園にとって最大の障害の一つは、南欧人の多かったバーバリ沿岸地帯では、親がアメリカ生まれの子どもが少なく、ほとんどの子どもが幼稚園以外で英語を聞いたことがなく、「イエス」「ノー」さえ、知らなかったことであった。また、折角、子どもが少し改善しても、すぐに他の地域に移動することも、悩みの種であったという。¹⁹

Ⅲ. ゴールデンゲイト幼稚園協会の設立とその成長

1 ゴールデンゲイト幼稚園協会の設立

無償幼稚園の需要が高まり、反響も大きくなったので、1883年にジャクソン街幼稚園協会は、ゴールデンゲイト幼稚園協会に改称された。この幼稚園協会の目的は、「サンフランシスコとその周辺において無償幼稚園の設置と維持、無償の幼稚園教諭養成校の整備、この協会の条項の遂行において、可能な限り、放任された貧困な子どもたちの間における活動の促進である」（規約第1条）と規定されていた。

表1. 幼稚園の成長

	幼稚園数	登録数	収入（ドル）
1879年	2	109	1,805.70
1880年	4	228	3,227.90
1881年	5	297	3,446.85
1882年	6	342	4,700.20
1883年	8	467	10,624.85
1884年	12	819	14,016.15
1885年	13	983	16,507.92
1886年	15	1105	17,307.50
1887年	17	1378	19,129.90
1888年	19	1517	25,295.92
1889年	24	2133	31,667.24
1890年	32	2637	42,376.88
1891年	35	3108	43,731.90
1892年	37	3318	43,196.81
1893年	38	3504	39,017.88
1894年	40	3588	44,205.77

備考：Sixteenth Annual Report of the Golden Gate Kindergarten Association, p.20 より。

クーパーが会長に就任した。協会の会員にはその支援のために年に3ドル以上の支払いが求められた。²⁰ クーパーは、10年間の活動を振り返り、約60名の慈悲深い女性がこの協会の理事として、子どもたちのために労を惜しまず、無償で尽力してくれたと感謝の弁を述べた。²¹ 表1に示されているように、多くの気前の良い寄付者による支援と、鼓舞してくれる地元の新聞雑誌（日刊・週刊・月刊）の手助けもあって、無償幼稚園は急成長を遂げた。

幼稚園の数は年々増加し、16年目の1894年には2カ所の幼稚園が新設され、全部で40カ所の幼稚園がゴールデンゲイト幼稚園協会の下に運営されていた。年間の登録者は3,588名であり、前年度より84名増加した。幼稚園は満杯であり、収容能力を超えていた。子どもの年齢は主に3、4歳（最年少2歳8か月、最年長7歳）であった。収入は\$44,205.77、支出は\$30,983.48であった。この16年間で保育された子どもの延べ人数は20,116名に上った。²²

サンフランシスコの幼稚園に対する関心が高まり、各地からの訪問者が絶え間なかった。²³ ゴールデンゲイト幼稚園協会は、貧困な放任された子どもたちのための無償幼稚園に関する世論を喚起すること、教授システムとしての幼稚園方法の価値を示すことを目的に年報を発行してきたが、²⁴ 15カ年の間に7万5千以上の年報が国内と外国に配布された。1893年にシカゴで開催された万博の展示会場でも、1万以上の年報が他の関連資料とともに配置された。このゴールデンゲイト幼稚園協会の展示は賞を獲得した。²⁵ こうしたゴールデンゲイト幼稚園協会の鼓舞と援助により、ここ15カ年の間、国内だけでなく、カナダやニュージーランド、日本、中国、オーストラリア、メキシコ、ブラジル、南アフリカ、イタリア、などの外国において200カ所以上の無償幼稚園が開設されたという。²⁶

ゴールデンゲイト幼稚園協会の教師については、1890年において、その3分の2は1879年にウィギンが開設した幼稚園教諭養成校（10年間で238名の有資格教師を輩出）の卒業生であった。クーパーは、彼女らの仕事への奉獻こそ、ゴールデンゲイト幼稚園協会の成功の有力な要因であると指摘するとともに、

これらの教師について、次のように記した。「私たちの教師は、多くの不安定な取り乱した家庭を親切に世話する天使である。彼女らは、酔っ払った母性の深刻さ、酔った父親の放任と苦痛から幼い子どもたちを守ることは言うまでもなく、しばしば、家庭の争いを鎮め、家族の不安を調整し、当惑する母親に助言を与え、病気の人を慰め、亡くなった幼い子どもにも礼服を着せる（中略）。神は、永遠に我慢強い、忠実な、辛抱強い私たちの教師たちを祝福する。子どもたちはいかに彼女らを愛していることか」。²⁷

2 無償幼稚園の成長を支えた寄付金

サンフランシスコの無償幼稚園は慈善活動であり、公的な財政支援は皆無であり、クーパーは、その稀有な熱意と知恵によって多くの遺産や寄付を集めた。協会の年報の冒頭には、「友よ、あなたは遺書を作成することを考えていますか。もし、そうならば、サンフランシスコの無償幼稚園にいる、貧困な放任されている幼い子どもたちのことを忘れないでください。『世界の希望は子どもたちの中にある』（The hope of the world lies in the children）ことを覚えていてください」という呼びかけが記載されていた。この言葉はゴールデンゲイト幼稚園協会の標語となっていた。

こうした説得力のあるクーパーの呼びかけに応じて、多くのキリスト教徒たちが無償幼稚園のために気前よく遺産と寄付金を提供した。最大の寄付者は、ハースト（Phoebe A. Hearst）とスタンフォード（Leland Stanford）であった。彼らは無償幼稚園の財政支援の二本柱であり、二人の支援なしにサンフランシスコにおいて無償幼稚園活動を拡充するのは困難であった。ハーストは、サンフランシスコの放任された子どもたちのための無償幼稚園の大義に共鳴し、最終的にクーパーの絶え間ない支援要請に応じて、1906年までに8万ドル超の寄付を行った。²⁸ カゼンノヴィア神学校時代、クーパーのクラスメイトであったスタンフォードとその妻、ジェーン（Stanford Jane）は、訪ねてきたクーパーによって興味を喚起された。ジェーンは、先立たれた一人息子の記念にサンフランシスコやその周辺に設置された

6か所のリーランド・スタンフォード記念幼稚園を支援するために4万5千ドル以上を寄付した。²⁹

クーパーは、市内のビジネスマンたちにも支援を訴えた。ビジネスマンに幼稚園に興味をもってもらうために、彼女がとった戦略は、彼らに幼稚園を訪問して、幼稚園の仕事を見てもらうことであった。その際、幼稚園は「賢明な投資」であると力説した。すなわち、幼稚園は商業地域における犯罪と破壊を減少させるという利益をビジネス界にもたらし、最終的に彼らの税負担を軽減させると訴えた。³⁰ クーパーの説得が功を奏し、ゴールデンゲイト幼稚園協会は、「製品交換業」や「代理人業」、「保険業」、「不動産業」、「商業」といった民間団体からの支援を得て5カ所の幼稚園を設置運営した。³¹

クーパーの稀有な熱意と影響力によって集められた寄付金のおかげで、サンフランシスコの幼稚園運動は着実に未曾有な発展を遂げた。1895年にはサンフランシスコは、シルバー街幼稚園協会とゴールデンゲイト幼稚園協会の尽力によりどこよりも無償幼稚園制度が確立していた。³² もっとも、皮肉にも、こうした私的な慈善による無償幼稚園の普及はサンフランシスコにおける公立学校制度への幼稚園の統合を阻害し、1890年代にアメリカ合衆国の他の州で展開された公立幼稚園の発達が遅れるという事態を招いた。³³

Ⅳ. 無償幼稚園における教育とその方法

1 幼児期における教育の必要性

クーパーにとって貧困、犯罪をいかに予防するかが、大きな問題であった。多くの犯罪者を構成することになるだろう不運な子どもたちの多くは、邪悪な性癖と悪徳に満ち溢れた世界に生まれたために、ハンディキャップを持って人生をスタートさせていた。クーパーは言う、「貧困、犯罪、残酷の子どもたち、安アパート、汚い路地に群がる子どもたち、親しく名前を呼んでくれる人を持たない子どもたち、“人生の荒れた海原を、浮き荷や投げ荷のように”、あちらこちらに揉まれる子どもたち」³⁴ これらの幼い浮浪児を善良な市民にするには、出来るだけ早期に捜し出し教育しなければならないと。なぜ

なら、「幼児期といった柔軟な時期は、悪徳な性癖を除去し、善への潜在的な可能性を発達させるのに好都合な時期であるから」。³⁵

2 幼稚園における教育とその方法

こうした幼児期の重要性に対する認識の下、クーパーは無償幼稚園を設置した。無償幼稚園は、公立学校入学前の2歳半から5歳までの貧困な幼児を美德で有用な自立した市民に育てることにより、犯罪や貧困を予防しようとした。保育時間は午前9時から午後2時までであった。では、犯罪と貧困予防のためにどのような教育がなされたか。

クーパーは、幼稚園において、知識の単なる注入よりも、子どもたちの能力の発達を目指した。神によって定められた植物の成長段階のように、人間にも根、葉、花といった時期があり、花の開花は根に与えられるケアと教育に大きく左右される。幼稚園教育は、このように重要な根の教育である。それゆえ、「あらゆる能力の芽は可能な限り早期に適切に育成されなければならない」。³⁶

具体的には、クーパーはペスタロッチの教えに従って、子どもたちの頭と心と手の調和的な発達を目指した。頭の教育はどのようにするのか。幼稚園では、言葉よりもアイデア、書籍よりも事物がより重視された。彼女は言う、「子どもたちに多くの言葉が教えられすぎている。子どもたちにアイデアを与えよ」³⁷ と。それゆえ、幼稚園における頭の教育で子どもに感覚を磨き、事物を念入りに観察し、思考するように教えることが根本的に重要であると論じた。³⁸

手の涵養は、時計屋や靴製造人といった特定の職業でなく、あらゆる将来の技術と職業に対する準備となると見なされ、子どもたちはフレーベルの恩物と作業に取り組んだ。³⁹ クーパーは、「感覚は鋭敏にされ、手は訓練され、身体は柔軟に活動的にされる。恩物と作業は、あらゆる種類の技術的活動を表している。」⁴⁰ と説いた。

無償幼稚園では、心の涵養も重視された。街頭で悪徳や犯罪、不摂生、絶望などを学んでいたスラムの子どもたちにとって、心の涵養は不可欠なものであり、貧困と放任という社会的不利を乗り越えてい

く機会を与えるものであった。⁴¹ クーパーは次のように心の涵養を力説した。「真の幼稚園は、心と魂を正しい方向に涵養し、すべての生命の創造主との個人的な結合へ導くことを目指している。(中略)子どもたちは創造主を愛するように教えられる。お互いに愛し合い、助け合い、親切にし合い、世話し合うように教えられる」⁴²と。特に、子どもが慈善に全面的に依存して貧困感情を持たないように、ものは対価を支払って、あるいは努力と勤勉によって獲得すること、他人に頼ることは軽蔑されるべきことが教えられた。幼稚園の金言は、「自助の成長を阻止するあらゆる助けは、生徒に悲惨な影響を与える」⁴³であった。なお、無償幼稚園の宗教教育は、子どもたちがあらゆる宗派と無宗派を表わしていたので、宗派的なものを導入しないように配慮した。なお、1881年に正教会の助祭は、これに納得せず、クーパーを被告して「異端裁判」にかけた。⁴⁴

これらの教育において、クーパーは、「我々はなすことによって学ぶ」(we learn through doing)を幼稚園方法の基本原理とし、子どもの自由、自己活動を最大限に保証するようにした。彼女は言う、「適切な成長のためには、生来の生命法則への遵守と結びついた自由がなければならない」⁴⁵と。もっとも、自由は、自制心によって、他人の権利を尊重するものでなければならなかった。クーパーは、フレーベルに学び、幼児の自己活動を重視した。「幼稚園は、子どもの自己活動を最大限、保証するように要求する」⁴⁶と。幼児の自己活動は、主として遊びという形態で表現されるが、クーパーは、遊びを通して幼い子どもの能力を発達させようとしたスペンサー(Herbert Spencer)とフレーベル(F. Froebel)を引き合いに出した。また、子どもたちの能力の芽を呼び覚まし、自己活動をもたらすものとして雨や露、太陽といった自然を挙げた。⁴⁷

放任された子どもを対象にする無償幼稚園では、教育だけでなく、ケアも大事になってくる。クーパーは、「ケアすることと教えることを結び付けるべきである」⁴⁸と主張した。無償幼稚園における教育とケアは、マトロンとして雇用されていた親切な有能な女性が担った。マトロンは、ヘルパーであり、母

親であった。彼女らは住み込みであり、必要な場合、幼い子どもに入浴や着服といった便宜を図った。開園の2時間前に朝食を摂らずに登園する子どもの髪をとかしたり、体を洗ったり、温かい食事を提供したりすることも珍しくなかったという。子どもの多くは生活習慣が形成されておらず、マトロンの苦労は並大抵ではなかった。こうした骨の折れるケアは、住み込みの補佐の手助けにより、大いに軽減された。⁴⁹

3 教育活動の成果

ウェブスター小学校の校長であったマニング(Agnes A. Manning)が1892年7月21日に教育長スウィートに語った陳述は、無償幼稚園の教育効果を如実に証言するものであった。特に彼女は25カ年以上もサンフランシスコの学校局(School Department)にいたという経歴を持っていたので、説得力があった。彼女の小学校は、過密地域にあり、安アパートと路地に住む多くの子どもたちは、幼稚園が設置される前は、2歳から街頭教育を受けていた。しかし、幼稚園に通うようになって、彼らは大きく変わったという。「最早、私はバーバリ沿岸地域の乱暴な物言い、あるいは麻薬密輸者の罵りを聞かない。幼い子どもたちは清潔で、自尊心も高く、知識欲がある。彼らは多くのものに自分なりの意見を持ち、それを熱心に表現しようとする。彼らは読み書きを知らない。彼らは見ること、観察すること、そして見たこと聞いたことを話すように教えられる。年長者を尊敬し、正直であること、真実を話すことを教えられる」⁵⁰と。

クーパー自身も、サンフランシスコ市における貧困児童に対する10カ年の活動を総括して、次のようにその実質的な成果を報告した。惨めな親たちが、徐々に彼らの子どもにしかるべき生活する機会を与えなければならないと感じるようになり、バーバリ沿岸地域を離れ、よりよい環境を求めて転居するようになった。⁵¹ また、「貧民根性と犯罪の予防にとって最善の教育は、幼児期から心身のあらゆる能力を発達させ、よい習慣を育み、正しい精神を涵養し、実際的な情報を植え付け、技能と能力を発達させ、若者を活動的な熟練した産業へ訓練するような種類の教育であることが明らかに示されてきた」と。こ

れまで、数多くの貧者と犯罪者が読み書きできないという事実を照らして、貧困や犯罪を予防するために読み書きを教えることが重要であると思われてきた。しかし、クーパーは、自らの経験から、「真実は、非識字は貧民根性と犯罪の第一の原因ではない」⁵²と断言した。

V. 幼稚園と母性

1 幼稚園と普遍的母性

クーパーにとって、幼稚園と母性は深く結びついたものであった。幼い子どもから母性を奪うのではないかという人々の懸念を払拭することは、無償幼稚園の発達にとって必須の課題であった。彼女は、「我が国が、今日、最も必要としているのは、母性の力強い復興である」と力説した。その優しく愛情に満ちた真の母性をもたらすためにも、無私を基調としているフレーベルの幼稚園原理を注意深く研究することが重要であるとした。子どもは、たんなる母性でなく、次のような特徴をもつ「普遍的母性」を必要としていると説いた。一つは、「普遍的な子ども時代に対する個人的な責任を感じる母性」である。もう一つは、「すべての子どもは、母親の愛情と思いやりを求める権利をもつとを感じる母性」である。クーパーは、この普遍的母性に利己的な母性を対比させ、利己的な母性は社会と家庭の害悪の根源であり、しばしば子ども時代に悲運をもたらしていると述べた。なお、普遍的母性という言葉の底流には、すべての子どもはひとしく神の子どもであるという子ども観があった。⁵³

幼稚園では、教師たちは、母親に代わって、多くの子どもたちに母性を提供してきた。⁵⁴クーパーは、「真の幼稚園教師は、その仕事に相応しい特有の資質を持たねばならない。母親の優しさと子どもの自然への真の哲学的な本能を結びつけねばならない」⁵⁵と述べた。

2 母の会の活動

無償幼稚園では母親の教育のために母の会が組織され、様々な活動が展開された。まず、幼稚園では、母親たちを「来賓」として年に4回迎えて、子どもたちの遊びを観察し、歌やお話を聴く機会を提供し

た。彼女たちは、こうした保育見学などから得た多くのヒントや示唆を家庭生活の改善に生かすことが期待された。⁵⁶また、母親たちは、自分たちにとって興味深い有益なテーマ、例えば、衛生や子どもの養育、家庭経済に関する話を打ち解けながら聴いた。⁵⁷母の会は、育児の不安や悩みを気楽に話し合える母親たちの交流の場としても機能した。つまり、より親密な関係が築かれるようにグループに分かれて、教師との面談や自己紹介、話し合いが行われた。そのねらいは、それぞれのニーズや心配、願い、不満を学び合い、彼女らの活気のない苦しい生活に新しい希望や楽しみがもてるようにすることであった。⁵⁸

クーパーは、10カ年の経験を総括して、家庭の改善に対する具体的な成果について、次のように述べている。「両親は子どもたちを価値があると感じ始める。彼らは子どもたちに対してより思いやりと親切さをもって接する。子どもたちは、誰かが自分たちを愛していると感じている」⁵⁹と。

3 幼稚園教諭の養成

幼稚園は、幼児や母親を教育するだけでなく、幼稚園理論と実習を通して若い女性の母性、幼稚園教諭を育む場でもあった。クーパーは、「可能ならば、すべての女性を幼稚園教諭にしたい」とその思いを吐露した。その際、「すべての女性を幼稚園教諭に教育することは、女子教育の最高の仕上げ」「幼稚園教諭であることは、女性らしさの完全なる発達である」と語ったアメリカ合衆国幼稚園運動の先駆者、ピーボディ (Elizabeth Peabody) の言葉を引用した。⁶⁰幼稚園の急増に伴い、質の高い教員への需要が高まったが、それに応えて、ゴールドンゲイト幼稚園協会は、1891年7月に10カ月制の無償師範学校 (Free Normal Training School, 校長, Anna M. Stovall) を設置した。その目的は、「若い女性に無償で徹底した幼稚園教諭養成コースを提供すること」と「最低限のコストで協会の下にある幼稚園のために大量の最も熱心な助手を確保すること」であった。⁶¹1898年には国際幼稚園連盟 (IKU) に推奨されていた2年制に移行した。教科書としてフレーベルの『母の歌と愛撫の歌』『人間の教育』『幼稚園教育学』やブロウ (Susan Blow) の『象徴主義の教育』、ハイルマ

ン (William Hailmann) の『教育史』、ボーエン (H. Courtope Bowen) の『フレーベルと自己活動による教育』が使用された。開校から7カ年で134名が卒業した。⁶² なお、太平洋岸の若い女性をその最高の責任、つまり母性に対して全力で訓練することは重要と考えられていたので、教員になる気はないが、妻と母性の役目への準備のために入学を希望する者にも門戸は開かれていた。⁶³

VI. 公立学校と幼稚園の統合の動き

1 公立学校と幼稚園の統合に関するクーパーの見解

ゴールドゲイト幼稚園協会による幼稚園の設置は、幼稚園を公立学校制度の中に統合し、公金によって幼稚園を支援することを最終目標にしていたクーパーにとって過渡的な対応であった。彼女は幼稚園と公立学校の統合、幼稚園の公立化というテーマに関して、どのような考えを持っていたのか。1873年にアメリカ合衆国で最初に公立幼稚園を設置したセントルイス市の先駆的な取組みにクーパーは強い関心を寄せていた。1882年の『サンフランシスコ市報』の中で、彼女は次のように報告している。「セントルイスの納税者は、今や、すべての小学校に結びついた幼稚園を要求している。子ども一人当たりの経費は、小学校よりも低い。他方、幼稚園教師による教育は、他の子どもたちよりも、より完全に、より早く正規の学校コースを通過するのを可能にしている。彼らの親たちにより多くの満足、子どもたち自身にもより多くの利益をもたらしている。この結果、通学の期間において、1年以上も節約している。結局、公金の節約にもなっている」⁶⁴と。このようにクーパーはハリス (Harris, W.T.) とブロウ (Blow, S.E.) によって主導されたセントルイス市の事例から、公立幼稚園は子どもや親、市当局にとってもメリットがあることを強調した。

クーパーは、セントルイス市のようにサンフランシスコ市においても公立幼稚園の設置を希望した。「馬が盗まれた後に、馬小屋に鍵を掛ける」。こうした諺を用いて、路地などで悪徳や邪悪さを身に付けている貧困な子どもたちを早期に優先的に掌握する

必要性を彼女は痛感していた。「不運な子ども時代は、不運な人生の確実な予言である」⁶⁵と。クーパーにとって、幼稚園を公立学校と統合し、幼稚園を公立化することは、犯罪と貧困を予防するために肝要な施策であった。彼女は、民主主義とは公平な機会を意味し、人生のスタートの時点における成長の自由と平等はあらゆる真の民主的生活の原則であると考えた。公立学校では、すべての子どもたちは貧富を問わず、自分を活かす機会をもつ。つまり、貧困な子どもたちは悪徳や邪悪さに満ちた街路から遠ざけられ、裕福な子どもたちも健全な規律の下に置かれて頑固、我儘になることが避けられる。幼稚園は両方の階層にとってこれらの利点がある。また裕福な子どもも、貧しい子どもも公立学校では同じ土俵にのぼる。裕福な子どもも怠れば、勉強家の貧しい子どもの下位に立つことになる。クーパーはそれがすべてであると主張した。⁶⁶

こうした機会均等の理念に基づく、幼稚園の公立化へのクーパーらの切望に対して、サンフランシスコの人々は予防的慈善に喜んで寄付するが、幼稚園の税負担については依然として乗り気でなかった。そこで、クーパーは、公立学校への幼稚園の統合に伴い税負担の抑制するために若い女性のボランティアを活用することを提案した。これは、有給の教師と同じ位女性ボランティアのいたセントルイスの公立幼稚園から学んだものであった。そして、「あらゆる階層の若い女性たちは幼稚園理論の討論から多くの教養とともに、妻と母親として彼女らに計り知れないほど役立つように意図された数多くの教育経験を見出すだろう」⁶⁷と述べた。

2 実験幼稚園の設置—公立化への第一歩

1880年から、サンフランシスコの教育委員会は公立学校部門を結び付けて、5歳児を受け入れる幼稚園実験をジャクソン116で開始した。その経緯は以下の通りである。当時、クーパーによれば、スラム地区にジャクソン街幼稚園協会が設置した2カ所の幼稚園に収容人数を超える入園の申込みがあった。やむなく年少児（2歳半から5歳未満児）を優先入園させるという苦渋の決定がなされ、5歳児が閉め出される事態になった。その結果、40名から50名の

貧しい5歳児が入園できないという待機児童問題が出現した。彼らが街路に戻って悪徳と犯罪を学ぶという悲しい事態を避けるために、ジャクソン街幼稚園協会は、ジャクソン街幼稚園が設置されている同じ建物の中に5歳児を受入れるクラスを4か月無償で確保した。⁶⁸

開設から4か月後、無償では運営でないことが判明し、クーパーらは実験幼稚園として運営されるように教育庁（board of education）に請願を行った。この請願を受けて、教育庁は1880年2月27日の夕方、意見を聴取するために特別に委員会を招集した。この委員会は、公立学校制度の中に幼稚園を導入するという主題について、教育委員会と協議するために公立幼稚園協会によって任命されたものであった。研究者や教育者、博愛主義者、ビジネスマンなどから構成されていた。スウィートやウィギン、テイラー（公立学校の校長、John W. Taylor）らが、幼稚園の利点を証言し、教育庁による幼稚園の採用を促した。⁶⁹

その後、公立学校に幼稚園を統合させる実現可能性を調査するために委員会が設置された。委員会は1880年5月24日にジャクソン街幼稚園の5歳受入れクラスを実験学校として採用することを是とする報告を行った。教育庁は、この報告を受けて、その間もなく学校法の領域に入る受入れクラスを学校当局と関連したジャクソン街実験幼稚園として開設した。⁷⁰ これは、サンフランシスコ市における最初の公立幼稚園になった。

また、クーパーは、幼稚園に賛成する世論も成長し、こうした実験幼稚園を設置した教育委員会の行動に多くの満足が表明されていると述べた。彼女は、ジャクソン街幼稚園における自分たちの仕事が、幼稚園に好意的な世論を確立するのに貢献してきたと自負していた。そして、改めて、幼稚園は貧困層の子どもだけでなく、裕福な家庭の子どもたちにとって貴重な安全装置、子どもたちの能力を発達させる重要な教育機関であると主張した。そして、「公金がこれよりも有望な水路の中に入り込むことができるのか」と投げかけた。「幼稚園は、見込みと果実、希望と報酬に満ちている。サンフランシスコをアメリカにおいて最も望ましいすべての原型—世界中の

市の仲間にするだろう」。⁷¹

1882年、クーパーは、「サンフランシスコにおける幼稚園は、もはや実験ではなく、既成の事実である」と主張した。今や、サンフランシスコには、15カ所の幼稚園があり、3歳から6歳までの約1,000名の子どもが登録されており、他の州を大きく引き離している。この内、2カ所は公立学校部門と繋がった、ジャクソン街116と、1881年7月に開設されたユニオン街512の実験クラスであった。⁷² クーパーらによる幼稚園と公立学校の統合への努力は、彼女が亡くなって10年後の1906年に実った。1913年、サンフランシスコの教育委員会が、市の幼稚園クラスの運営に責任を負い、入園年齢は4歳半から6歳までに限定された。⁷³

VII. おわりに

以上、19世紀末における幼児教育の視点からの貧困や犯罪への取り組みの事例として、カルフォルニア州のサンフランシスコ市において無償幼稚園運動を展開したゴールデンゲイト幼稚園協会を取り上げ、その創業者クーパーの経歴、幼稚園協会の設置目的、その取り組んだ教育活動、その発展を支えた要因、さらに、幼稚園の公立化についてのクーパーの見解や幼稚園と公立学校の統合の動きなどについて、彼女の論稿やゴールデンゲイト幼稚園協会の年報やサンフランシスコ市年次報告などを手掛かりに究明してきた。その結果、以下のことが明らかになった。

第一にクーパーは、サンフランシスコへの大量の移民流入の中、ウィギンが教師をしていたシルバー街無償幼稚園の訪問をきっかけに無償幼稚園の設置を動機づけられ、1879年にジャクソン街幼稚園協会、1883年にはゴールデンゲイト幼稚園協会を創設した。その目的は、幼児期の教育の重要性に対する認識に基づいて、悪徳に満ちた街頭から幼い子どもたちを遠ざけ、彼らの教育を通して犯罪と貧困を予防することであった。第二にゴールデンゲイト幼稚園協会は『世界の希望は子どもたちの中にある』という標語の下、無償幼稚園運動を展開し、16年目には40カ所の幼稚園（登録数、3,588名）を擁するまで

に発展した。その活動を支えたのは、稀有な熱意と影響力をもったキリスト教徒クーパーであり、約60名の慈悲深い女性理事、献身的な女教師たちであった。慈善としての無償幼稚園は、女性の領域であったことが分かる。第三にクーパーは、予防は罰より安価であるという信念の下、裕福な階層に貧困と犯罪と予防としての幼稚園の価値とともに、貧困階層への人間的共感の必要性を説いた。地元のメディアである新聞社も市民への啓蒙に大いに尽力してくれた。公的支援のない中、ハーストやスタンフォードをはじめ、多くの気前の良い寄付者は、サンフランシスコの無償幼稚園の成長発展に大きく貢献した。

第四にクーパーは、読み書きができないことが貧民根性と犯罪の第一の原因であるとする従来の考えを排斥し、ペスタロッチに学んで幼児期からの心身の全面的な発達という理念の重要性を説いた。また、「我々はなすことによって学ぶ」を幼稚園における教育方法の原理とし、子どもの自由と自己活動（遊び）を重視した。彼女は、こうした教育理念と方法こそ、幼児期に相応しい教育であり、貧民根性と犯罪を予防に有効であることを示した。第五にクーパーは「普遍的母性」という観念を用いて、すべての子どもは母親の愛情と思いやりを求める権利があると主張した。幼稚園は幼い子どもから母親を奪うという懸念を払拭することは幼稚園の発展に肝要なことであった。実際、無償幼稚園では、母の会の活動の一環である保育見学や育児相談など通して母性を育む支援が行われた。また、幼稚園は幼稚園理論と実習を通して若い女性の母性、幼稚園教諭を育む場でもあった。幼稚園教員への需要の高まりに応じて、ゴールドゲイト幼稚園協会は、1891年7月にフレーベル主義の無償教員養成校（1898年に2年制へ移行）を設置した。第六に慈善幼稚園の限界を感じたクーパーにとって、すべての子どもに幼稚園教育を与えるために幼稚園と公立学校を統合し、幼稚園を公立化することは、犯罪と貧困を予防するために不可欠な施策であった。彼女は、民主主義とは公正な機会を意味するとの考えに基づいて、人生にスタート時点で、貧富に関わらず、すべての子どもにひとしく幼稚園教育を保障しようとした。1880年に

はサンフランシスコでは、幼稚園の教育的価値に対する世論の認識を深めてきたクーパーらの取り組みもあって、5歳児のための実験幼稚園が開設され、公立幼稚園制度確立に向けた第一歩になった。しかし、幼稚園と公立学校の統合への努力は、税負担の増加に対する学校当局や市民の懸念のため、その実現は1906年まで待たねばならならなかったし、5歳未満児に対する教育保障は1920年代に展開された保育学校運動の課題として残された。

謝辞：本研究内容は、四国大学学際融合研究所での研究活動として得られたものである。ここに深くお礼申し上げます。

注

1. R. Heber Newton, "The Bearing of the Kindergarten on the Prevention of Crime", *Proceedings of the National Conference of Charities and Correction*, 1886, pp.55-56. V. Celia Lascarides & Blythe F. Hinitz, *History of Early Childhood Education*, Falmer Press, 2000. pp.248-249. "Wonderful Progress Made", *Tenth Annual Report of the Golden Gate Kindergarten*, 1889, p.12. 以下、Golden Gate Kindergartenは省略。
2. Kristen D. Nawrotzki, "Greatly Changed for the Better": Free Kindergartens as Transatlantic Reformance, *History of Education Quarterly*, Vol.49, No.2, May 2009, pp. 182-183.
3. "Sarah B. Cooper", *The Kindergarten for Teachers and Parents*, Vol. II, No.13, May, 1890. p.393.
4. Fred M. Campbell, "The Educators of the Pacific Coast: Sarah B. Cooper", *The California Educational Review*, Vol. I, No.4, April, 1891, pp.145-146.
5. Elizabeth Dale Ross, *The Kindergarten Crusade: The Establishment of Preschool Education in the United States of America*, Ohio University Press, 1976, p.26.
6. John Sweet, *Public Education in California: Its Origin and Development, with Personal Reminiscences of Half a Century*, American Book Company, 1911,

- p.226.
7. Agnes Snyder (ed.) *Dauntless Women in Childhood Education, 1856-1931*, Association for Childhood Education International, 1972, p.105.
 8. Ross, *op.cit.*, p.37.
 9. Association for childhood Education International, Committee of Nineteen, *History of Kindergarten Movement in the Western States Hawaii and Alaska*, Association for Childhood Education International, 1940, p.15.
 10. Elizabeth Peabody, "Mrs. Cooper's Life and Death", *Kindergarten News*, Vol. VII, No.5, January, 1897, p.206.
 11. Frances E. Willard and Mary A. Livermore, eds. *American Women : Fifteen Hundred Biographies with over 1, 400 Portraits*, Vol.1, Mast, Crowell & Kirkpatrick, 1897, pp. 206-207.
 12. "Sarah B. Cooper", *The Kindergarten for Teachers and Parents*, Vol. II, No.13, May, 1890, p.393.
 13. Ross Elizabeth Dale Forman, *The Kindergarten Movement in the United States: 1870-1914*, UMI Dissertation Services, 1971, pp.37-38. これらの幼稚園の記事は、協会の第13年報に掲載された。"First Series of Kindergarten Articles", *Thirteenth Annual Report*, 1892, pp.134-149.
 14. "Sarah B. Copper", *op.cit.*, p.394.
 15. M.W. Shinn, "Poverty and charity in San Francisco", *The Overland Monthly*, Vol.XIV, No.83, November, 1889, p.542. M.W. Shinn, "Charities for Children in San Francisco", *The Overland Monthly*, Vol.XV, No.85, January, 1890, p.94.
 16. *First Annual Report of the Jackson Street Free Kindergarten Association*, 1880, pp.3-11.
 17. Roland Carol Marie, *The California Kindergarten Movement: A Study in Class and Social Feminism*, University of California, UMI Dissertation Services, 1980, p.77.
 18. Forman, *op.cit.*, p.38. Ross, *op.cit.*, p.24.
 19. "Our First Kindergarten", *Sixth Annual Report*, 1885, p.11.
 20. "Constitution and By-Laws of the Golden Gate Kindergarten Association", *Eighteenth Annual Report*, 1897-98, p.54.
 21. Cooper, "Practical Results of Ten Years' Work", *Proceedings of the National Conference of Charities and Correction at the Sixteenth Annual Session held in San Francisco, September 11-18, 1889*. Ed, Isabel C. Barrows, p.188.
 22. *Sixteenth Annual Report*, 1895, p.19.
 23. Cooper, "Report on Kindergartens", *San Francisco Municipal Reports*, Board of Supervisors, 1882, p.679.
 24. "Annual Reports Scattered Broadcast", *Tenth Annual Report*, *op.cit.*, p.25.
 25. "Annual Reports. Over Seventy-Five Thousand Scattered Broadcast", *Fifteenth Annual Report*, 1894, p.22.
 26. "Over Two Hundred Kindergartens", *op.cit.*, pp.22-23.
 27. William Warren Ferrier, *Ninety Years of Education in California 1848-1936*, Sather Gate Book Shop, 1937, pp.172-173.
 28. Alexandra M. Nickliss, *Phoebe Apperson Hearst: A Life of Power and Politics*, University of Nebraska Press, 2018, pp.90-93. Ross, *op.cit.*, p.25.
 29. Cooper, "Practical Results of the Ten Years' Work", *op.cit.*, p.187. Marie, *op.cit.*, p.97.
 30. Marie, *op.cit.*, p.99.
 31. "Historical Resume of the Golden Gate Kindergarten Association", *The New Education*, vol.1, No.1, May, 1893, p.91. "An Important Question", *Thirteenth Annual Report*, *op.cit.*, p.121.
 32. Marie, *op.cit.*, p.91.
 33. *Ibid.*, p.100. p.107.
 34. Cooper, "The Kindergarten as a Child-Saving Work", *Proceedings of the Ninth Annual Conference of Charities and Corrections, held at Madison, August 7-11, 1882*, p.131.
 35. Marie, *op.cit.*, p.62.
 36. Cooper, "The Organic Union of Kindergarten and Primary school", *Proceedings of the International*

- Congress of Education of the World Columbian Exposition Chicago, July 25-28, 1893*, The Association, 1894, p.336.
37. *Ibid.*, p.338.
38. Cooper, "The Kindergarten in Its Development of Faculty", *Report of the International Council of Women, Washington, D.C., March 25 to April 1, 1888*, Internatinal Council of Women, 1888, p.68.
39. Cooper, "Report on Kindergartens", *San Francisco Municipal Reports*, Board of Supervisors, 1880, pp.737-738.
40. Cooper, "The Kindergarten in Its Development of Faculty", *ibid.*, p.67. Patrica L.de Cos, *History and Development of Kindergarten in California*, California Research Bureau, California State Library, April, 2001, p.365.
41. Forman, *op.cit.*, p.29.
42. Cooper, "The Kindergarten as a Child-Saving Work", *op.cit.*, p.135.
43. Cooper, "Practical Results of Ten Years' Work", *op.cit.*, p.190.
44. "What We Teach in the Kindergarten", *Fourteenth Annual Report*, 1893, pp.42-43. Snyder(ed), *op.cit.*, p.105.
45. Cooper, "The Organic Union of Kindergarten and Primary School", *op.cit.*, p.336.
46. Cooper, "Report on Kindergartens", *op.cit.*,
47. Cooper, "The Organic Union of Kindergarten and Primary School", *op.cit.*, p.338.
48. Cooper, "Kindergarten for Neglected Children", *The American Journal of Education* (ed. Henry Barnard) Vol.31, 1881, p.206.
49. Cooper, "Practical Results of Ten Years' Work", *op.cit.*, p.191. "Our Faithfull Matrons", *Tenth Annual Report*, *op.cit.*, p.154.
50. "Read This Testimony! What the Free Kindergartens Do for the Public School", *Fifteenth Annual Report*, 1893, pp.23 -25.
51. "Practical Results of Ten Years' Work", *op.cit.*, p.190.
52. *Ibid.*, p.192.
53. Cooper, "The Kindergarten in Its Relation to Motherhood", *The Kindergarten for Teachers and Parents*, Vol.II, No.4, August, 1889, pp.99-100.
54. "What will be the Future of These Children?", *Fourteenth Annual Report*, 1893, p.20.
55. Cooper, "Report on Kindergartens", *op.cit.*, 1880, p.739.
56. "Another Step Forward. Mothers' Meetings", *Twelfth Annual Report*, 1891, pp.20-21. "Our Mothers' Meetings", *Eighteenth Annual Report*, 1898, p.23
57. "Our Mother's Meetings", *Thirteenth Annual Report*, 1892, p.21
58. "Historical Resume of the Golden Gate Kindergarten Association", *op.cit.*, p.91.
59. Cooper, "Practical Results of Ten Years'Work", *op.cit.*, p.189.
60. Cooper, "The New and True Education", *The New Education*, Vol.I, No.1, February, 1893, p.4.
61. "Free Normal Training School", *Eighteenth Annual Report*, 1898, p.23.
62. *Ibid.*, pp.23 - 24.
63. "What We Hope for", *Fourteenth Annual Report*, 1893, pp.37-38.
64. Cooper, "Report on Kindergartens", *op.cit.*, 1882, p.679.
65. Cooper, "Report on Kindergartens", *op.cit.*, 1880, p.736.
66. Cooper, "The Organic Union of Kindergarten and Primary School", *op.cit.*, p.339.
67. Cooper, "Report on Kindergartens", *op.cit.*,
68. *Ibid.*, p.734.
69. *Ibid.*, pp.734-735.
70. First Annual Report of Jackson Street Free Kindergarten Association, *op.cit.*, p.12.
71. Cooper, "Report on Kindergartens", *op.cit.*, pp.739-740.
72. Cooper, "Report on Kindergartens", *op.cit.*, 1882, p.675.
73. Lillian M. Clark, "Kindergarten Legislation in

California – How We Secured it and Some of Its Results”, *Journal of Proceedings and Addresses of the Fifty – Third Annual Meeting and International*

Congress on Education held at Oakland, California, August 16-17, 1915, National Education Association of the United States, 1915, p.636.

ABSTRACT

This paper's aim is to clarify how Sarah Cooper battled against poverty and crime from the viewpoint of early childhood education and care in San Francisco, California of the late nineteenth century by using the annual report of the Golden Gate Kindergarten Association and San Francisco Municipal Reports and so forth.

As results of the study followings were cleared. The purpose of the Golden Gate Kindergarten Association was to prevent the poverty and crime. Many generous donors and the local press contributed to the growth of free kindergartens. Cooper placed great emphasis on children's freedom and self-activity under the educational ideal of full development of all faculties. Her aim was to guarantee every child a kindergarten education regardless of being rich or poor. She thought that public kindergarten was the desirable institution for achieving her aim. Free kindergarten made efforts to nurture motherhood through childcare tour and consultation, mothers' meetings.

KEYWORDS: Sarah Cooper, Golden Gate Kindergarten Association, free kindergarten, public kindergarten, San Francisco